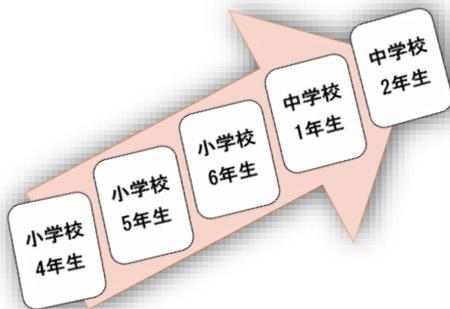


ふくしま学力調査

学力の伸びを引き出した学校の取組事例集

第2号

子どもたちが
どれだけ自分が伸びたかを実感し、
自信を深め、意欲を高め、
さらに学力を伸ばすために
「ふくしま学力調査」を実施します



ふくしま応援！
「ペコ太郎」

令和4年12月
福島県教育委員会



学力の伸びを引き出した学校の取組事例

1 趣旨

ふくしま学力調査において学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と共有することを通して、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 第2号について

令和4年度は、初めて昨年度調査からの経年比較による「学力の伸び」を見ることができた。第2号では小学校6年生と中学校2年生の学力の伸びに着目した取組事例を紹介する。学校の規模別に国語及び算数・数学において学力の伸びを引き出した学校から聞き取りを行い、効果が見られたと考えられる取組をまとめている。

3 学校の規模について

【小学校】

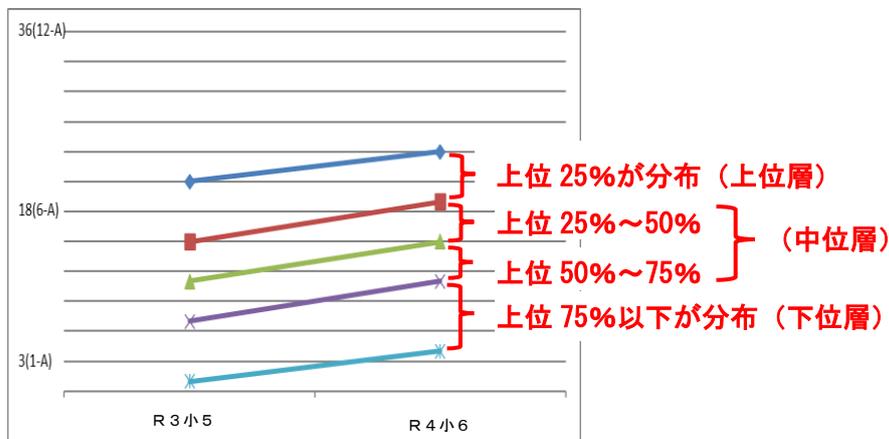
- 大規模校・・・19学級以上
- 中規模校・・・12学級～18学級
- 小規模校・・・11学級以下

【中学校】

- 大規模校・・・10学級以上
- 中規模校・・・6学級～9学級
- 小規模校・・・5学級以下

4 学年全体の学力の伸びの状況について

学年全体の学力の伸びの状況を、下図のように学力レベルの階層に分けて示している。この図により、学校の取組がどの学力層にとって効果的であったと考えられるかを可視化することができる。



- ◆ ⇒ 最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル(最大値)
- ⇒ 上位25%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- ▲ ⇒ 上位50%に位置する児童・生徒が属する学力レベル(中央値)
- × ⇒ 上位75%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- * ⇒ 最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル(最小値)

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
<p>上位層、中位層、下位層のいずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。</p>	<p>上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。</p>	<p>上位層は伸びているが、中位層にはほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。</p>

【国語科】 学力向上学級化プランを意識した意図的・計画的な指導

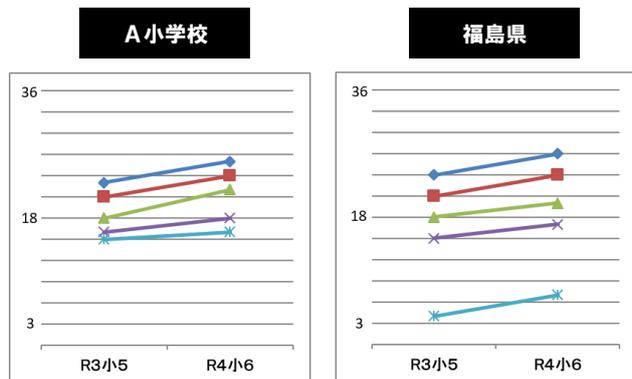
1 学校の概要

A小学校	小規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが県と比べて大幅に高い。
- 特に上位50%に位置する児童が属する学力レベルが県と比べて大きく上がっている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学力向上学級化プランの活用

学力テストの分析結果を踏まえ、学力向上グランドデザインを学級化した学力向上学級化プランと自己評価シートを各学級担任が週案に綴り、毎月振り返ることで、日々の授業改善にいかそうとする意識を高めた。

② 自分の考えをもつ「書く」活動の位置付け

自分の考えをもつということが、思考力、判断力、表現力等の育成の基本と考え、自分の考えをもたせる時間を毎時間確保し、自分の考えを整理し、修正して書く(まとめる)習慣を身に付けさせた。

③ 家庭学習のR-PDCAサイクル

家庭学習の内容を、授業にリンクさせたテスト学習へと変更した。児童自身がテスト結果を踏まえ、どの内容についてどの程度学習すればよいか自己マネジメントしながら家庭学習に取り組むようシステム化した。

【国語科】 所与の条件の中での表現活動の継続

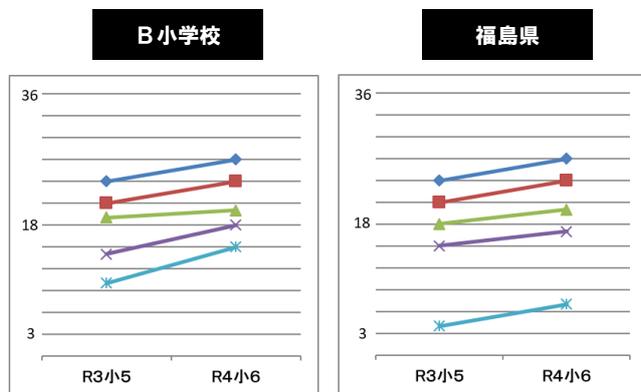
1 学校の概要

B小学校	小規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが県と比べて大幅に高い。
- 特に下位層の学力が大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 考えをまとめ伝え合う活動の実施

読み取った内容や感想をまとめるときは、段落構成や使用する語句を指定し、条件に合わせて書く活動を取り入れた。まとめた内容について、立場を明らかにして伝え合う場面を設定した。

② 新聞記事の活用

書くことの基礎的・基本的な力を身に付けさせるために、興味のある新聞記事を選び、記事の内容の要約と記事に対する感想や意見を、2段落構成でまとめる課題に継続的に取り組んだ。

③ ふくしま活用力育成シートの活用

文章を読む際に、要点を素早くつかむことができるように、制限時間を設定して問題に取り組ませた。また、文章の中から答えの根拠となる部分に線を引かせることで、理由を明確にして考えることができるようになった。

【国語科】 学習活動の視点が明確な授業

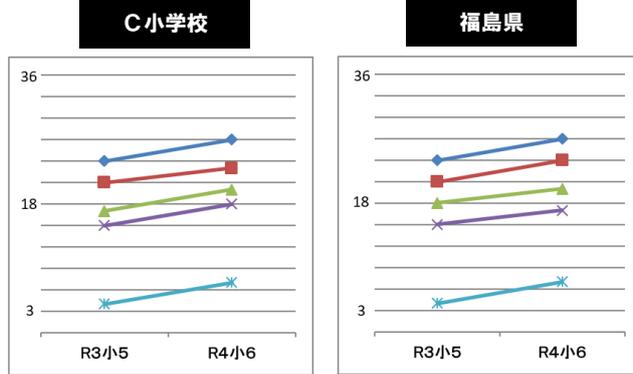
1 学校の概要

C小学校	中規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位50%に位置する児童が属する学力レベルと上位75%に位置する児童が属する学力レベルが県と比べて大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① どの児童にも分かりやすいめあての提示

文学的な文章を扱った学習では、「～の気持ちを考えよう。」というめあてではなく、「場面が大きく変わったのはどこか。」など、疑問型のめあてにすることで、どの児童も課題を明確に捉え、追究できるようにした。

② 視点を明確にした話し合いの実施

グループでの話し合いの時間を多く設定し、全員が十分にアウトプットできるようにした。「友達と何について話し合い、何が分かったか。」を児童自身が常に意識しながら話し合うことをルールとして取り寄せた。

③ 自分の学びを振り返る時間の確保

「1時間で考えきる。話しきる。」を合い言葉に、まとめ・振り返りの時間を必ず確保した。タブレットを活用し、話し合いの様子を撮影した映像を見て、振り返ることも行った。

【国語科】 粘り強く学ぶ力を高める学習活動と組織的な指導体制

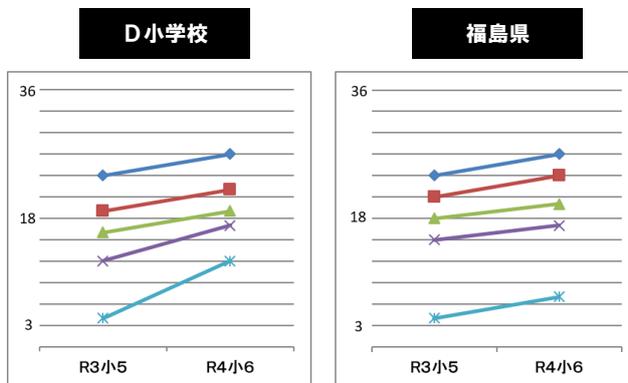
1 学校の概要

D小学校	中規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 下位層の学力が大きく伸びている。
- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが特に大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 学び合いの充実

対話を通して、多様な考えを比較し、伝え合う活動を充実させ、学級全体で主体的に学び合うことができるようにした。

② 粘り強く学ぶ態度の育成

サイドラインを引くことによる言葉への着目や誤答問題の解き直しを行い、文章を正確に読み、粘り強く課題に取り組む態度の育成を図った。さらに、日常的に授業や家庭学習の振り返りを書くことで、自己の成長や習得した力を自覚できるようにし、学習意欲の向上につなげた。

③ 組織的な指導体制の整備

教科担任制によって指導体制を整備し、教材研究の充実を図った。また、習熟度別学習や前学年の復習の機会を設け、複数教員が関わりながら個に応じた指導ができる体制を構築した。

【国語科】 家庭学習カードの活用や補充学習の充実等による学力向上

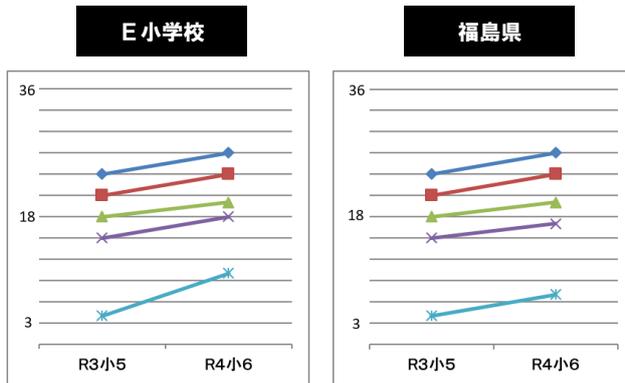
1 学校の概要

E小学校	大規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 下位層の学力が大きく伸びている。
- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが特に大きく上がっている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 家庭学習カード活用による家庭との連携

学年だよりや学年懇談会等の機会を捉え、家庭学習カードの取組を説明し、保護者の理解・協力を得ることで、家庭学習の時間を確保できるようにした。

② 授業における「まとめの時間」の充実

授業の終末段階では、必ずめあてに対するまとめを自分の言葉で書かせるようにしてきた。また、振り返りの時間を確保し、その授業で学んだこと、授業の感想等を書かせる活動にも継続して取り組んだ。

③ 午前中5時間制による補充学習の充実

日課表の中で特に6時間目がない曜日に、読書や補充学習（下位の児童への個別指導も含む）の時間を20分程度設定し、計画的に取り組んだ。

【算数科】 他者との学びと自己の振り返りを組み合わせた授業づくり

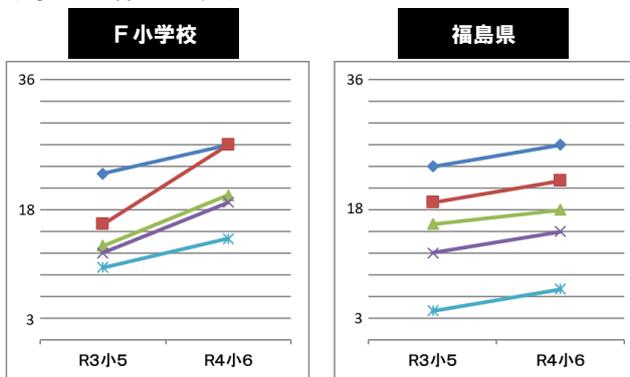
1 学校の概要

F小学校	小規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 中位層の学力がかなり大きく伸びている。
- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが県と比べて大幅に高い。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 双方向の学び合い

「シンカタイム」と名付けた学び合いの目的を児童と共有し、どの教科の授業にも位置付けた。自分の考えを「進化・深化」し、自分の「真価」に気付く時間となることを目指し、双方向のやり取りを大切に指導した。相手の言葉を受けとめ、再生したり問い返したりすることで、表現する力が高まり、集団の前でも話すことができるようになった。また、人が話す言葉に関心をもつ習慣が身に付き、主体的に授業に臨むようになった。

② 自分の考えを「書く」活動を重視した授業展開

自分の考えを「書く」活動を授業に設定し、書くことで自分の考えが整理されることを実感できるようにした。特に、「振り返り」の視点を明確にして書かせたこと、児童が自己の学びを自覚できるようになった。

【算数科】「ふくしまの『授業スタンダード』」をもとにした主体的な学び

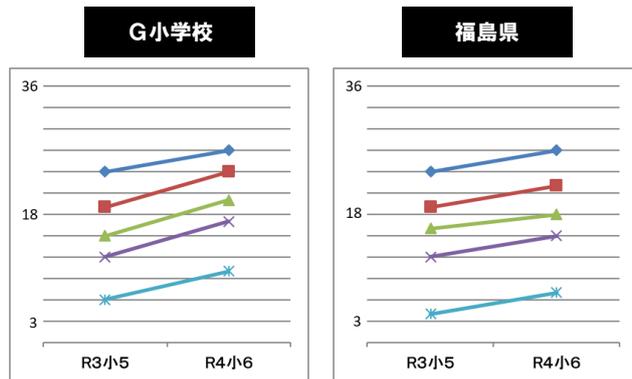
1 学校の概要

G小学校	中規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(算数科)

小学校5年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層の学力が大きく伸びている。
- 最も学力が低い児童が属する学力レベルが県と比べて高い。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 児童の個々の考えを学級全体で共有・吟味させる教師のコーディネート

図や式、グラフ等を関連付けて比較検討させた。また、児童が働かせる数学的な見方・考え方を想定した問い返しをしたり、児童にとって必要感のある話し合い活動の場面を設定したりした。その中で、児童が「分からない」と言える関係で共有・吟味している。

② 振り返りの充実

振り返りの視点を明確に示すことで、児童自らの考えと友達の考えを比較したり、根拠を明確にして説明したりして、自分の言葉でまとめるようにした。

③ 自分や友達によさに気付ける学級づくり

児童が自分のよさを「キラリノート」にまとめたり、友達によさを「みんなの『キラリ』」として学級掲示に示したりする取組を行い、親和的な学級づくりを行っている。

【国語科】 探究的な活動の充実や自己決定の尊重による学力の向上

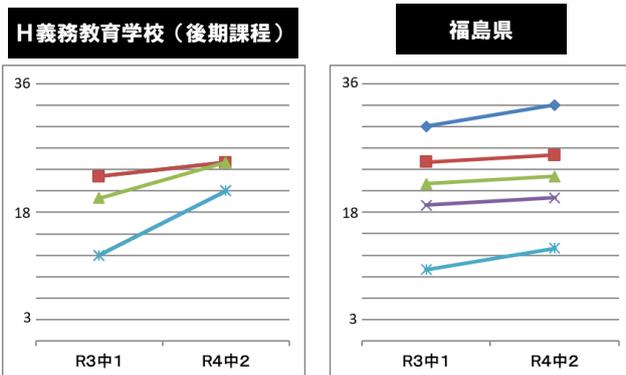
1 学校の概要

H義務教育学校（後期課程）	小規模校
---------------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

義務教育学校 7年生→義務教育学校 8年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層・下位層の学力が大きく伸びている。
- 特に最も学力が低い生徒が属する学力レベルが県と比べて高い。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 探究的な活動の充実

学校の教育活動の中で、生徒自身が見つけた課題を大切に、教科等横断的な学習を展開することで、課題の解決を図ってきた。その活動過程を学校行事等の様々な場面で児童生徒や教職員、保護者、地域の方々等に向けて発表する表現活動の充実を図った。その際、生徒が頑張ることができるようになった姿を称賛して価値付けした。生徒は自信を深めたことで、非認知能力も高まり、様々な教育活動に主体的に取り組むことができるようになった。

② 自己決定の尊重

生徒自身がじっくり考え、自己選択・自己決定する機会の拡充を図った。具体例として、生徒一人一人の考えを基に時間割を作成したり、単元テストの日程を組んだりしている。

【国語科】 主体的な学びを引き出すゴールからの授業づくり

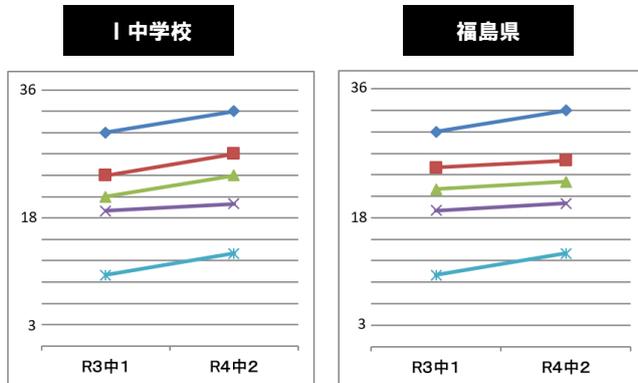
1 学校の概要

I 中学校	大規模校
-------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(国語科)

中学校 1年生→中学校 2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%及び50%に位置する生徒が属する学力レベルの間の層が県と比べて大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 主体的に取り組みたくなる課題設定

教材研究を深く行い、どのようなまとめと振り返りにするか、そのためにどのような学習課題を設定するかを吟味して授業を構想した。特に、生徒の「なぜ」を大切に、考えてみたくなるとともに、熟考を要する学習課題になるよう工夫した。

② 言葉を大切にされた授業展開

リーディングスキルを視点とした授業づくりに全校で取り組んでおり、国語科では特に、「係り受け解析」「照応解決」を意識して指導した。また、言葉にこだわった読解や表現を目指し、より適切な言葉は何かなど、問い返しをしながら授業を進めた。教科書の内容について、「正確に読むことができていない」という前提に立ち、分からない言葉を辞書で調べる習慣を身に付けさせたり、実物をもとに確認したりするなど、正確に言葉を理解できるよう配慮して授業を行った。

【数学科】 主体的な学びを引き出す授業改善と課題設定の工夫

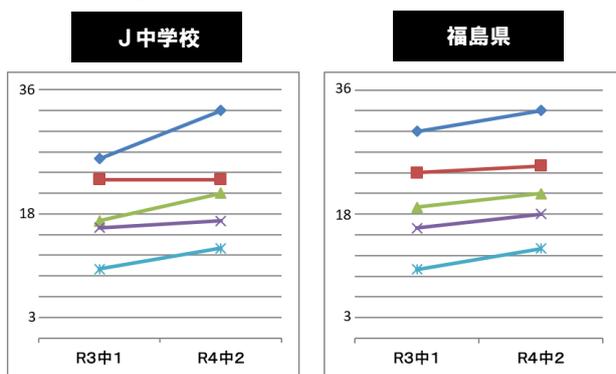
1 学校の概要

J 中学校	小規模校
-------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 最も学力が高い生徒が属する学力レベルがかなり大きく上がっている。
- 上位50%に位置する生徒が属する学力レベルも大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 授業で課題を完結する

基礎的な学習内容の定着を図るため、帯学習でドリル形式の計算練習を行った。また、対話を通して学びを深める時間や終末のまとめの時間をしっかり確保することで習熟を図った。

授業以外でも生徒が自ら考える場を設定することで主体的な活動を促した。(生徒会総会、生徒会専門委員会等の改善)

② やらされ感のない課題を設定する

自己マネジメント力を育むため、「宿題ゼロ」「やらされ感ゼロ」を教育スローガンに掲げ、一律に課す宿題を廃止した。

自主学習の方法を身に付け、主体的に学ぶことができるようにするため、年度初めに「学習の手引き」を用いて学習オリエンテーションを行った。また、期日の幅や選択課題、目標がある課題などを設定した。

【数学科】 主体的に学習に取り組む態度を伸ばす授業づくり

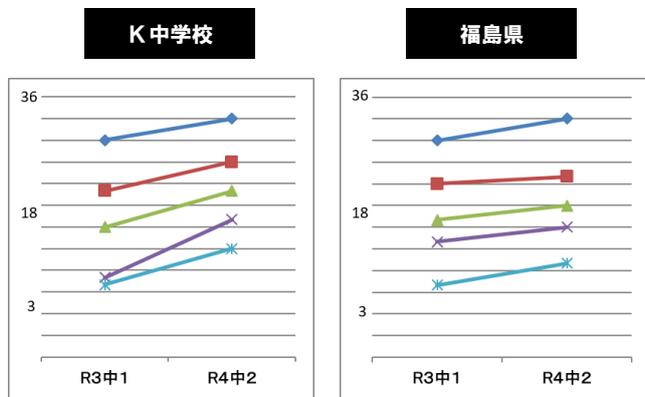
1 学校の概要

K 中学校	小規模校
-------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層・下位層の学力が大きく伸びている。
- 特に下位層の学力がかなり大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 各章終了後に実施するテストとレポート

学習内容の定着度を確認するために章末テストを実施し、必要に応じて、解説の時間を確保した。また、章末レポートを書かせることにより、生徒が自らの学びを整理し、工夫や改善を図って学習を進められるようにした。

② 生徒が互いに学び合う授業づくり

どの生徒も主体的に学習に参加し、考えを広げたり深めたりすることができるように、少人数学習やペア学習の時間を意図的に設定した。その結果、下位の生徒の学習意欲の向上が見られるようになった。授業のまとめでは、生徒のノートをデジタル黒板に映し、個人から全体、全体から個人という流れで学びを共有させた。さらに、互いに協力しながら疑問を解決できる雰囲気づくりにも努めた。

③ 各種学力調査や活用力育成シートの利用

各種学力調査の問題等を意図的に授業で扱ったり、定期試験の出題の参考にした。

また、演習や自主課題として、活用力育成シートに取り組みさせた。

【数学科】 自ら課題を発見し協働的に解決する授業の工夫

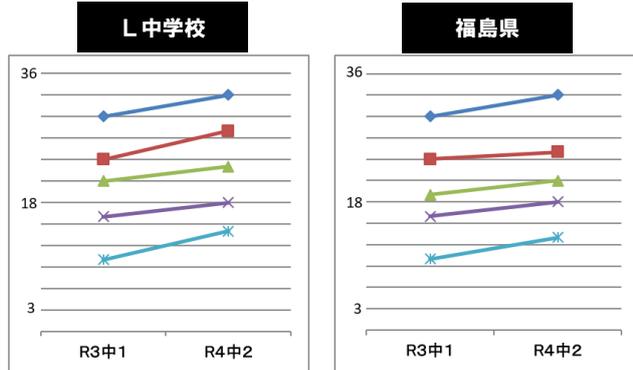
1 学校の概要

L 中学校	中規模校
-------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する生徒が属する学力レベルと最も学力が低い生徒が属する学力レベルが県と比べて大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① つまずく場面の意図的な設定

既習の知識及び技能の活用を必要とする問題によって、つまずく場面を意図的に設定し、「どうすれば今までに学んだ考え方で解けるか？」等、生徒自身が本時の課題を発見することができるよう工夫した。

② 考えを共有・吟味するグループ学習

授業の早い段階で、生徒同士のグループ学習を設定し、「どうやるの？」ではなく「どういうこと？」と考えを聴き合うことで、解決方法を直接教えてもらうのではなく、問題の意味や本質を理解しながら、協働的に解決できるようにした。

③ 「全国学力・学習状況調査」等の問題の活用

「全国学力・学習状況調査」や全国の入試問題を積極的に授業に取り入れ、グループ学習を通して活用力の育成に取り組んだ。

【数学科】「評価問題の自己選択」と「丁寧な見取りと対応」で「できる実感」につなぐ

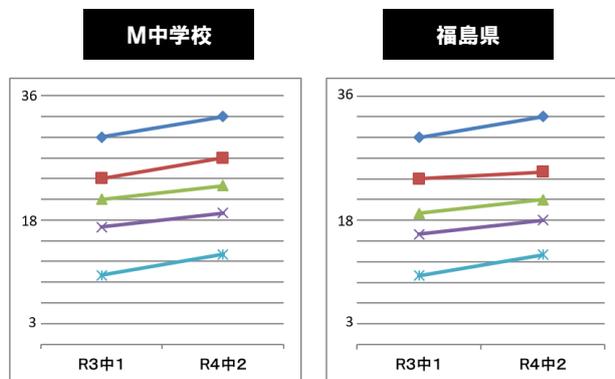
1 学校の概要

M 中学校	中規模校
-------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 中位層の学力が県と比べて高い。
- さらに、中位層の学力が大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 活用できた実感につなぐ評価問題とICT活用

基本問題・標準問題・活用問題と複数パターン準備し、生徒が自己選択・挑戦できるようにした。

また、一人一台端末を活用して評価問題に取り組ませ、生徒の定着やつまずきを即時把握し、指導・支援に活かした。また、上位の生徒のために、質問のあった問題の解説や、さらによい解法を模範解答と同時に示し、自主的に学習できる環境を整えた。

② 習得・活用のバランスを考慮した授業設計

「計算トレーニング／前時の定着確認→本時の内容→評価問題」を一単位時間の基本構成とし、学習のリズムの定着と確実な習得・活用を保障した。

③ 校内研修(効果的なICT活用)・教材研究

生徒の問題発見・解決過程における効果的なICT活用について教科部会を中心に研修を重ねたことが、授業改善につながった。

【数学科】 話合いや家庭学習を有効活用して学力を伸ばす

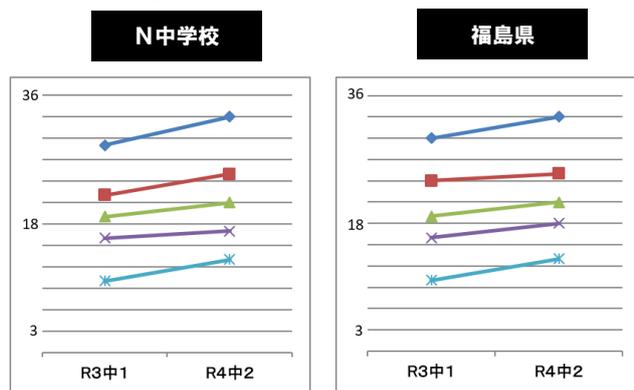
1 学校の概要

N中学校	中規模校
------	------

2 令和3年度から令和4年度の結果(数学科)

中学校1年生→中学校2年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位層の学力が大きく伸びている。
- 特に上位25%に位置する生徒が属する学力レベルが大きく上がっている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 課題解決の手順や方法を周りの生徒と共有させる授業の展開

ペア学習などを通して、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えから解決方法に気付いたりすることにより、自分の考えを確実に深めることができた。特に上位の生徒が、解決に至らない生徒をサポートする取組によって、互いに向上しようとする意識が高まった。

② 学習内容を確実に定着させるための手立てや方法の工夫

学習内容の確実な定着には、何度も振り返ったり、活用したりすることが必要だと考え、「授業→家庭学習→授業」のサイクルを確立し、ワークブックなどの問題に何度も取り組んだり、定期テストの誤答問題を理解できるまで解き直したりする習慣を身に付けられるようにした。